



郁子

○初鏡マスクを取れば笑えない
うさぎ連れ家族絵出の帰郷かな
土佐弁のとびかふ城下春の市

酔花

青信号脱兔のようなチャリの音
晚酌の父の流儀や塩タタキ
おでん鍋玉子ひとつをゆずりあう

えり

実の残る柗挿すや福よ鬼よ
兔小屋マイナス四度今日日なり
里神楽ゆさぶりささり胸の中

万貴

○おでん鍋なんど聞いてもいい話
鉤形尻尾ピンと立てて年の空
いいね！いいね！乱発の指冬ざるる

志津子

○水鳥や日向へわずかゆらく水
何処より香放つか枇杷の花
鳥葬の白黒画像冬木立



農子

○冬晴の大久野島のうさぎの眼
○先ず記す子等の誕生日初暦
箒目や柗挿した古柱

富江

○兄が居て弟も居たネ雪うさぎ
廃屋を囲む柗艶やかな
五位鷺の思案川面に初景色

美貴

○すくと立つ白鷺もまた淑気かな
○正直にわたくし映す初鏡
○宿木を養ってゐる枯木かな

味元 昭次 作品

柗挿すまだ人間をやっています
この国に九条ありぬ雪うさぎ
戦争は来るな来るなと柗挿す

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年二月二十二日(水)
午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます



富子

○小春日や 鞍の妣をふと思ひ
兔年跳ねる力はないけれど
柗をテープで止めるひとり居や

千代

○煌々とビニールハウス雪時雨
ロ々に絵本の名前うさぎ小屋
柗挿す伯母の記憶は途切れがち

みどり

○兔の目つぶらという名の嘘をつき
大寒に背中を感じる日向ぼこ
柗挿し何を払うや今さらに

秀美

○虎河豚が減法好きで仏かな
白侘助一輪あらば心清み
幼年の写真少なし雪兔

文子

野兔や枯草深し斜面蹴り
庭の彼方此方植えしことなき數柑子
蠟梅の床屋の裏庭咲き初める

